

出会いにくくなってしまった生き物：アカハライモリ

一昔前まで、アカハライモリは水田や水路に行けば簡単に出会うことができる普通種でしたが、近年の千葉県ではあまり出会うことのない珍しい生き物になりつつあります。その理由は耕作放棄や圃場整備による生息環境の悪化や、商業目的の大量捕獲等によって大きく減少したためだと考えられています。今号では、アカハライモリの生態や現状について紹介します。写真の撮影者は「a0389（団員番号）」です。

アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster*

千葉県レッドリストのランク：最重要保護生物(A)

成体



幼生



幼体



本州、四国、九州にかけて分布する日本固有種です。普段は水中で暮らし、成体はほとんど水から出てきません。全長8～13cmほどの大きさで、背中側が真っ黒な一方で、お腹側が赤いのが特徴です。フグ毒と同じテトロドキシンという強い神経毒を持ちますので、触れた際は手を洗うようにしてください。

アカハライモリは1度に40個ほどの卵を、浅瀬に繁茂した水草等に1粒ずつ産み付けます。孵化した幼生は水中で暮らします。幼生の初期には、顔の横側にバランサーと呼ばれる平衡感覚を司る器官が見られます。孵化後3～4か月経つと変態し、上陸します。上陸した幼体の時期は陸地で暮らし、成長(3歳で成熟)したのちに再び水中生活に戻ると言われています。このように、アカハライモリが成長し、子孫を残していくためには、水域だけでなく陸域も必要です。特に、幼体が容易に陸地へと上られるような水と陸が緩やかに繋がった環境が必要です。

生命のにぎわい調査団

千葉県レッドデータブック

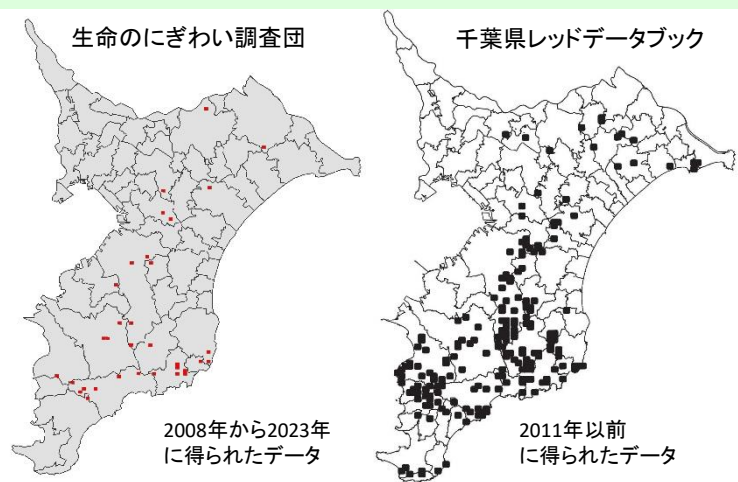


図. アカハライモリの分布地点(左図の赤色の格子は3次メッシュ(1km×1km)です)

もし、水田、水路や河川等でアカハライモリを見かけた際は、是非とも生き物報告にご投稿ください。団員の皆さんと千葉県内で減少中のアカハライモリの生息状況(現在でも残っている生息地)を明らかにしていきたいです！

生命のにぎわい調査団に投稿されたデータを整理し、分布図を作成しました(左図)。右図は千葉県レッドデータブック(2011年改訂版)で公開されている分布図です。地図から分かるように、近年の分布情報は非常に少なく、生息状況はよく分かっていません。その理由は耕作放棄や圃場整備等の生息環境の悪化による生息地の消失や商業目的の過剰採集によって減少しているためだと思われます。また、生き物を観察される方の減少や獣害対策の柵によって水田や水路に近づきにくくなったこと等によって、アカハライモリの分布情報が得られにくくなった可能性も考えられます。今後、千葉県に生息するアカハライモリの現状を把握する上では、最新の分布情報を収集する必要がありますので、生息地をご存知の方、またはアカハライモリを発見された際は、是非とも生命のにぎわい調査団まで情報をお寄せいただけますと幸いです。

参考文献

千葉県. 2011. 千葉県レッドデータブック 動物編. 千葉.

関慎太郎. 2021. 野外観察のための日本産両生類図鑑. 緑書房.

松井正文・森哲. 2021. 新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版.

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団：<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> 生物多様性センター：<https://www.bdcchiba.jp/>

古典文学と里山の生き物たちの世界



第二十六回 ニホンヒキガエル

Bufo japonicus ヒキガエル科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をしていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

日本の神話と大和朝廷初期の歴史がしたためられた『古事記』は、現在知られている中では我が国最古の書物です。その『古事記』に、ヒキガエルは重要な役割で登場します。

それは^{おおくにぬし}大国主神が出雲国の美保岬にいたときのこと、海の向こうから、奇妙な船に乗り、不思議な服を着た小さな神様がやってきます。大国主神が「あれは誰だ」と尋ねても誰も知りません。ざわざわしているところへヒキガエルが進み出て、「カカシのクエビコなら知っているはずです」と言います。さっそくクエビコを呼んで聞いてみると、クエビコは、「それは^{かみむすび}神産巢日神の子の^{すくなびこな}少彦名神に違いありません」と答えます。果たしてその通りでした。その後、大国主神と少彦名神は義兄弟となり、ともに国づくりに励むのです。



画 齋藤倫瑠

少彦名神の親である神産巢日神とは、いったい何者でしょうか。実は、日本神話において、天地が分かれ、世界が始まった時に出現した三つの神のうちのひとつが、この神産巢日神なのです。その名の通り、様々な事物を生み出す神であり、また、大国主神がかつて兄弟たちに殺された際には、癒して生き返らせる働きをもしています。

突然現れた謎の神の正体を知るものが田んぼのカカシであり、そのカカシと現実世界の地域の長との仲介役を務めるのが地を這って虫を食べるヒキガエルであるという設定、さらにその謎の神が生産の神の血を引くもので、長と協働して地域を発展させてゆくという物語の流れからは、日本神話の世界において、稲作農業と、それによって形成される里山の生態系が、既に非常に重要なものであったという事実が浮かび上がってきます。

この『古事記』に出てくるヒキガエルは、近畿地方以西に分布するニホンヒキガエル (*Bufo japonicus*) であったことでしょう。千葉県を含む東日本には、近縁の別種アズマヒキガエル (*Bufo formosus*) が生息しており、両者は形態も生活ぶりもほとんど変わりません。体長 10cm を超え、繁殖期以外はほとんど水に入らず、ゆったりと地面を歩き回るヒキガエルの姿は、確かに人間の知らないことをよく知っていそうに感じられますね。

<これからの季節に観察できる生きもの>

○調査対象種: ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチョウ (黄葉)、イロハモミジ (紅葉) など

○調査対象種以外

- * 渡りのシギ・チドリ類などの鳥類
- * 各種昆虫、両生類、爬虫類など
- * 希少生物 (生息地・生息数が減少している生物)、外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の確認が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

^{いのち}「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内 晩秋の都市公園で身近な生き物を観察しよう!

松戸市の千駄堀にある都市公園「21世紀の森と広場」を散策しながら、晩秋に見られる都市公園ならではの動植物を観察します。園内には様々な樹木や東京ドーム約 1 個分の広さがある千駄堀池があり、多種多様な生き物に出会うことができます。

●開催日 (荒天中止)

令和 6 年 11 月 16 日 (土) 10 時～12 時 (予定)

●定員: 40 名 (申込者多数の場合は抽選)

●対象: 団員、小学生以上 (要保護者同伴)

●申込締切: 令和 6 年 11 月 6 日 (水) 必着 (メール、郵送または FAX)

●詳細は申込案内書をご覧ください。